

メロディーもハーモニーも

アルトサクソ

サクソの中でもっともポピュラーなアルトサクソ。輝かしさと柔らかさを兼ね備えた、美しい響きを奏でます。金管楽器に近い力強さを持つ反面、表現力が豊かなので、心に響く柔らかい音色も出すことができる楽器。

[岩下 信司 / 森 涼子 / 庄司 徹]

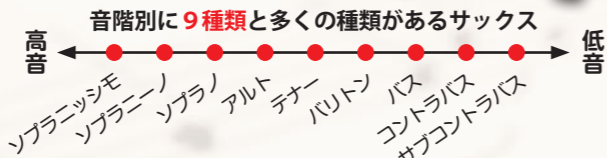


低音域で力強くベースラインを担当

バリトンサクソ

アルトサクソの1オクターブ下の音域で、ビッグバンドや吹奏楽、カルテットで使用されています。力強さとしなやかさを兼ね備えており、ソロの楽器としてはあまり使われませんが、ベースラインを担当する、とても大切な楽器です。

[柴立 雄大]



10人に1人が経験者と言われる「吹奏楽大国」日本。高校校児が熱戦を繰り広げる甲子園の応援にも欠かせない存在です。そんな吹奏楽の歴史は長く、古代エジプトの壁画にもラッパや太鼓が描かれるほど。現在のよな編成が始まったのは11世紀末の中世ヨーロッパと言われ、当時は戦いの士気を高めるための演奏でした。日本最初の吹奏楽団はなんと鹿児島で、薩摩藩が結成した西洋音楽の軍楽隊、いわゆる「サツマバンド」です。オーケストラと違い、コントラバス以外の管楽器と打楽器で編成される吹奏楽は、息を吹き込んで音を表現する管楽器、曲全体のリズムを打つ打楽器のみで構成。その力強さや迫力は、聴く人、見る人を自然と笑顔にする魅力を秘めています。その昔、遠い異国で大切な人を応援するために生まれ、現在も広く愛される吹奏楽は、心が折れそうなきこそ前を向く勇気を、私たちに与えてくれます。

リズムを刻む欠かせないパート

ドラム/パーカッション

リズムを刻むパーカッション・打楽器は吹奏楽に欠かせないパート。その種類は大きく3種類に分けられ、ドラムセットなどのリズム系や、グロッケンなどの鍵盤系、シンバルなど小物系と数多く存在します。演奏中に多くの楽器を持ち替えながら、その場面に合った音色で演出するのが特徴です。

[森 健二郎 / 牧原 遥菜]



リズムとメロディー両方担う重要な楽器

エレキベース

コントラバスの代わりとして演奏されることが多いベース。低音パートを担当する隠れた主役で、ドラムが担うリズムの役割に加え、メロディーの役割も担っている楽器です。

[貫見 欣司]

高音域でメロディー担当

フルート

空気を振動させて音を出す「エアリード楽器」。華やかな音色と優雅な吹き姿から、女性に人気の高い楽器です。高音域を担当し、最前列に座ることが多い目立つ楽器。

[眞茅 沙紀 / 姫ヶ迫 あかり / 今村 愛来]



最も高い音域を担当する

ピッコロ

木管楽器に分類される楽器で、長さは約35cmとフルートの約半分しかありませんが、さらに1オクターブ高い音域を出すことができます。フルート奏者が曲中に持ち替えながら演奏する姿が特徴的な楽器。

[眞茅 沙紀 (兼務)]



メロディーを支える中心楽器

クラリネット

吹奏楽においてメロディーパートを支える中心楽器で必要不可欠な存在。音域は中～高音域と広く、メロディーを担う「花型楽器」の一つで、1枚のリードを振動させて音を出します。

[濱田 佳代子 / 篠原 信行]

吹奏楽の起源と楽器を一挙紹介



コンダクト (指揮)

楽譜を読み込み、全体の音のバランスを聞きながら曲をまとめ、演奏者の表現力を高める存在。

[畑 隆宏]

バイオリンなどの弦楽器を含まない編成の吹奏楽。大切な人にエールを送るために奏でたことが始まりです。ここでは吹奏楽に使われる楽器の一部をご紹介します。

スライド奏法が特徴的

トロンボーン

昔から原型が最も変わっていないスライドという仕組みを持つ楽器。音域は中低音で、伸び縮みするスライドで音階を奏でる奏法が特徴的です。人の声に最も近い音色とも言われています。

[君付忠和 / 野間川内 彬好]



中低音域の万能楽器

ユーフォニアム

吹奏楽においては欠かすことのできない万能楽器。名前は「よく響く」というギリシャ語に由来しています。包み込むような暖かい音色が特徴で、音域は中低音。管楽器の中では最も新しい楽器の一つ。

[今村 咲司 / 谷山 かおり]

吹奏楽における花形楽器

トランペット

フルートに並ぶ有名な管楽器の一つ。唇を振動させて音を出すリップリード楽器で、音域は金管楽器の中で最も高く、ストレートな音色と存在感、華やかな音色と突き抜けるような高音が魅力です。

[牧原 美咲]

